

令和4年度第1回御殿場市地域公共交通協議会議事概要

令和4年7月5日開催 14時30分～15時20分

御殿場市林業会館第1研修室

※委員11名出席（全17名）

1 開会 （全体進行：御殿場市未来プロジェクト課長）

2 挨拶 （市区長会勝又神山区長）

会議の開催については、企画部長が急用により欠席となったが、予定通り開催させていただくことにした。規約に基づき、手順確認し、慎重な対応をお願いしたい。

コロナに関する感染症対策も、「ウィズ コロナ」へ移行してきた。バス、タクシー、鉄道といった公共交通の利用が大幅な減少するなか、今後の利用人数の回復も図っていかなくてはならない。

本日は、事業・予算関係の審議ほか、公共交通の現状についても理解を深めたいと思うので、宜しくをお願いしたい。

3 委員紹介 （自己紹介）

4 地域公共交通の現状について……資料1-1、1-2、1-3

（説明：事務局）

5 協議事項

（1）役員の選出について……資料1

仮議長として前副会長の御殿場市区長会代表が進行を行った。

（説明：事務局）

資料2 第5条第2項により役員は互選により選出する旨説明を行った。

高村委員（御殿場駅構内タクシー組合組合長）：事務局一任でどうか。

勝又仮議長：ただいま、事務局一任とご意見いただいたがどうか。

事務局にて下記の役員案を提示した。

会 長（市企画部長 沓間 信幸氏）

副会長（市区長会代表 神山区長 勝又 勝美氏）

監 事（市老人クラブ連合会会長 林 典男氏）

異議なしとして、事務局案にて役員を選出した。

（以下、会長不在により規約第6条2項により副会長が議長となり進行）

（2）令和3年度事業報告・決算報告について……資料3

（説明：事務局）

資料3に基づき、事業報告・決算報告・監査報告（代読）を行った。

いずれも異議なしとして原案どおり承認された。

（3）令和4年度事業計画（案）・収支予算（案）について……資料4

(説明：事務局)

資料4に基づき、事業計画(案)・収支予算(案)について説明を行った。

いずれも異議なしとして原案どおり承認された。

6 報告事項

(1) 近年の地域公共交通支援事業について……資料5

(説明：事務局)

(質疑等)

長田氏(静岡県地域交通課 平野委員代理)：

2点補足も兼ねて発言します。まずバスロケの件については県についても昨年補助金を投入させていただいた。このシステムを広く展開していただくように周知を事業者だけではなく、御殿場市さんにもお願いしたい。また、今年度のタクシーと自動車運転代行業の車両維持支援事業については、現在県に順次申請をいただいております、適宜さばいております、こちらの交付決定を持って御殿場市さんにも申請してもらいたい。

志村氏(富士急モビリティ㈱代表取締役社長)：

事務局からも説明があったバスロケーションシステムの導入については、国土交通省様、静岡県様、御殿場市様、小山町様より多大なるご支援をいただき導入できたことについてこの場を借りて御礼を申し上げる。事業所としても、幅広く利用者の方に周知しながら利便の向上を図りたいと考えている。

7 その他

風岡委員(静岡運輸支局主席運輸企画専門官)より、補足資料【活発で良い議論ができる会議のために。及びバス停の安全性確保対策の進捗状況】についての説明
地域公共交通に関して活発な意見交換をお願いしたい。

(質疑等)

事務局：御殿場市には1箇所中山上の上りのバス停が対象のバス停になっている。これについて富士急モビリティ様に状況はどうか。

櫻井氏【随行者】(富士急モビリティ㈱副所長)：

ご指摘の中山上の上りのバス停ですが、静岡運輸支局及び御殿場市様よりご指摘いただき、改善を検討している。該当のバス停は個人宅の出入りに置いてあり、個人宅の方とは何度か面会しており、どこに移動したらよいかお話をしている状況。移動先の目途もついているが、移動したことによるこのバスが起因となる事故が発生しないか慎重に検討している最中。次回の協議会で御殿場市内では危険バス停はなくなったと報告できるように作業を進めたい。

事務局：旧国道の県道沿いだが、ちょうど個人宅の入り口で歩道の段差がないところに

あり、動かすことで段差があるところに移る可能性が高いということで慎重に富士急モビリティ様で検討して下さっている。

勝又副会長（御殿場市区長会代表 神山区長）：

例えば、どこの県か忘れたが、（路線バスは）赤字になるということで、病院やお店に手を挙げてもらい、ここにバス停を作ってもらう代わりに月に1万円払うなどの仕組みを作っているところがある。この仕組みができれば、例えば病院へ通う人が降りられるというメリットを作った街がある。バス停を作るといえるものが道交法で問題があるかもしれないが、市に補助をお願いするのではなく、病院やお店などをお願いしたらどうか。

親谷氏（箱根登山バス 永田委員代理）：

利用者様が確実にいるわけなので、個人的にはおもしろいと思う。

事務局：市でも情報収集を行う。

風岡委員（静岡運輸支局主席運輸企画専門官）：

富士宮市さんはコミュニティバスのバス停をオーナー制度にして、バス停を設置してお店の名前をつけてもらうことで支援していただき、路線を維持する費用に充てている。

加藤委員（御殿場市身体障害者福祉会会長）：

障がい者が行きたいところは、病院、スーパー、金融機関、役所となっている。こういう場所を循環できるバスを作っていただきたい。こういった循環バスができれば障がい者はみんなうれしいと思う。

事務局：福祉部門でいわゆる地域のボランティアによる移動支援サービスも徐々に広がっている。貴重なご意見参考にしたい。冬にもう一度会議を予定しているため、その際にそれぞれの立場で公共交通についてのご意見をいただきたい。

8 閉会